

## 第4章 西予市の文化財保護の取組

### 1. これまでの文化財調査

西予市におけるこれまでの文化財の調査について、巻末資料7のとおり整理しました。以下に主なものを紹介します。

#### 県史・市町村誌・郷土史編纂等

西予市域の各旧村、旧町などでは、明治末期から平成の合併後にかけて、村誌や町誌、郷土誌(史)等の編纂事業が行われ、各地の自然環境や歴史、文化について整理されています。また旧町ごとの指定文化財等も整理されています。

#### 有形文化財(建造物)

愛媛県教育委員会による民家緊急調査、近世社寺建築緊急調査(平成元年度)、近代和風建築総合調査(平成15～17年度)、近代化えひめ歴史遺産総合調査(平成23～24年度)のほか、旧城川町教育委員会や旧野村町教育委員会が石仏や石造文化財を調査整理しています。このほか、尾道石工の手による石造物が市内に分布することが尾道市教育委員会による調査で明らかになっています。

#### 有形文化財(美術工芸品)

古文書の調査が多く、宇和史談会古文書部会が東山田村庄屋文書の翻刻を、平成18年度(2006)から現在に至るまで継続しており、城川町教育委員会や城川文書館による近世庄屋や近代行政文書等の目録作成、翻刻作業なども行われています。

#### 民俗文化財

愛媛県教育委員会によるふるさと年中行事調査(昭和49年度)、民謡保存調査(昭和54～55年度)、民俗芸能緊急調査(平成9～10年度)、祭り・行事調査(令和3～5年度)などが行われています。旧城川町教育委員会では、昭和53年度(1978)に文化庁の補助を受け、独自で作成した台帳をもとに茶堂の習俗についての記録保存を行いました。また城川遊子谷神仏講の習俗調査(昭和58年度)も実施されています。旧宇和町教育委員会による年中行事調査、旧宇和町文化協会による亥の子歌の調査なども行われているほか、昭和末期に山口大学民俗学研究室「惣川の民俗を知る会」による惣川の民俗調査も実施されています。

のむら自治振興協議会は、平成30年豪雨災害後、大阪大学や愛媛大学等の協力を得て乙亥大相撲に関する資料収集や関係者への聴き取りを行い、その歴史を調査しています。

### 記念物

開発に伴う調査としては、旧宇和町教育委員会が県営ほ場整備事業に伴う確認調査を行い、弥生時代後期の竪穴建物などが検出された永長遺跡<sup>おだのはし</sup>小田橋地区、同じく弥生後期の自然流路に大量の土器が廃棄されていた永長上塚田遺跡などの発掘調査を行っています。西予市教育委員会は、民間の開発事業に伴い坪栗遺跡、永長遺跡鶴刺地区の発掘調査を実施しました。前者は自然流路から弥生時代後期の大量の土器、木製品、異体字銘帯鏡などが出土しました。坪栗遺跡は県営経営体育成基盤整備事業に伴って2次調査が行われ、竪穴建物、粘土採掘土坑、円形周溝状遺構などが確認されました。また坪栗遺跡や国木遺跡などからは古代の官衙関連と思われる掘立柱建物などが検出されました。

保存目的の発掘調査としては、旧宇和町教育委員会が愛媛大学考古学研究室と共同で平成7年（1995）の岩木赤坂遺跡（古墳）の発掘調査を契機に、永長上横田遺跡、岩木畑中遺跡、田苗中市遺跡、山田細狩遺跡、岩木原田遺跡、笠置峠古墳、岩木赤坂古墳、河内谷遺跡などの発掘調査を実施し、宇和盆地の古代文化の解明に努めました。同研究室ではこれらの調査を素材に、科研費調査の実施、公開シンポジウムの開催など新たな調査研究へ展開させています。合併後は、西予市教育委員会が同研究室と共同で、笠置峠古墳、河内奥ナルタキ1号墳、西ノ前遺跡、東大谷古墳などの宇和盆地の遺跡のほか、野村町のタカシロ岩岩陰遺跡の調査を実施しました。また、西予市教育委員会では市内遺跡の詳細分布調査に取り組み、周知の埋蔵文化財包蔵地分布図を作成したほか、古代寺院の可能性が高い西ノ前遺跡、笠置峠古墳に後続する前期古墳である小森古墳、分布調査で新たに発見された前期前方後円墳であるムカイ山古墳の確認調査にも取り組んでいます。

平成6～8年度（1994～96）、平成22年度（2010）に愛媛県歴史の道調査が実施されました。平成22年度（2010）の調査は脱藩の道としても知られる構原街道（葦ヶ峠越、九十九曲峠越）と八幡浜街道の調査で、道の確定とその特徴が示されました。なお、八幡浜街道笠置峠越は平成29年（2017）10月13日に史跡に指定されました。

四国八十八箇所霊場詳細調査としては、平成27～29年度（2015～17）に愛媛県教育委員会が調査の一部を（公財）元興寺文化財研究所に委託して、四国へんろ世界文化遺産推進事業の一環として実施しています。四国八十八箇所霊場第43番札所明石寺の有形文化財や埋蔵文化財が調査されました。令和元年（2019）10月16日、伊予遍路道（明石寺境内、大寶寺道）として史跡伊予遍路道に追加指定されています。

### 文化的景観

平成27～29年度（2015～17）に西予市文化的景観調査委員会と西予市教育委員会が、西予市明浜町狩浜において文化的景観の調査を実施しました。この調査をもとにその価値が認められ、また保存のための必要な措置が講じられたことにより、平成31年（2019）2月26日に重要文化的景観に選定されました。

高山地区景観調査会、高山よいとな会は、西予市明浜町高山地区の景観構成を自然、歴

史、生活・生業の観点から調査し、高山地区の景観の特性を把握するとともに文化的景観の価値を明らかにすることを目的に、令和2、3年度（2020、2021）に調査を実施し報告書を刊行しました。地域づくり組織を主体とした本格的な文化財調査として珍しい取組で特筆すべき事例です。

#### 宇和町卯之町伝統的建造物群保存調査

平成9年度（1997）に、東宇和郡宇和町卯之町の町並みの現状とその特徴を明らかにし、伝統的な町並みの保存、整備計画を策定するための基礎資料を提示するため、旧宇和町と大阪市立大学、愛媛大学による調査が行われました。これを受け、平成21年（2009）12月8日に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

#### 指定等文化財に関する調査

このほか、西予市教育委員会では指定文化財の見直しと新たな価値の把握を目的とした調査を進めています。建造物では、鳥坂口留番所跡や大師堂、妙見寺本堂などの調査を行いました。彫刻では、市内の主な指定物件について調査を行い、新たな価値が把握された文化財もあります。またこの調査をもとに、極楽寺木造阿弥陀如来坐像（県指定）と地福寺木造阿弥陀如来坐像の保存修理につなげることができました。このほか、天然記念物の樹木について市内の樹木医の協力を得て、樹木の衰退度を把握する調査を実施しました。



専門家による彫刻の調査



博物館学芸員による有形民俗文化財の調査



埋蔵文化財調査委員会による現地指導



水損行政文書のレスキュー活動

## 2. 文化財の把握の状況

令和4年度(2022)現在での市内文化財の把握の状況は表11のとおりです。有形文化財と有形の民俗文化財、名勝地と動物、植物、地質鉱物は、全市域で部分的な把握に留まります。無形文化財の調査は、一部地域の部分的な実施に留まっています。無形の民俗文化財については、全地域で実施済みです。遺跡については、宇和と城川でおおむね把握できていますが、そのほかのエリアでは部分的な把握に留まります。文化的景観の調査は明浜町狩浜地区、伝統的建造物群の調査は宇和町卯之町地区での実施に留まります。

表11 市内文化財の把握の状況

		有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	伝統的建造物群
		建造物	美術工芸品		有形の民俗文化財	無形の民俗文化財	遺跡	名勝地	動物、植物、地質鉱物		
うみ	明浜	△	△	×	△	○	△	△	△	○	×
	三瓶	△	△	×	△	○	△	△	△	—	×
さと	宇和	△	△	×	△	○	○	△	△	—	○
やま	野村	△	△	△	△	○	△	△	△	×	×
	城川	△	△	×	△	○	○	△	△	×	×

○：おおむね把握できている

△：部分的に把握できている

×：調査未実施かほとんど把握できていない

—：該当なし

## 3. 西予市の文化財保護の取組

### ■ (1) 文化財の指定等 (巻末資料8参照)

当市における文化財の指定は、戦前の昭和11年(1936)の歯長寺縁起の国宝指定(当時。現在は重要文化財)が最初です。県指定は、戦後昭和23年(1948)の高野長英の隠れ家が、町指定は、昭和30年(1955)の宇和町における神久寺大般若経、祇園神社中広銅矛ほかの考古資料、小森古墳と二宮敬作住居跡の史跡が最初となります。

平成の合併後は、文化財登録、重要伝統的建造物群保存地区選定、史跡指定、重要文化的景観選定などが進められています。なお、平成26年（2014）に、西予市明石寺ヒノキ林が四国で初めてのふるさと文化財の森<sup>1</sup>に設定されました。

### ■（2）文化財保護審議会

文化財保護審議会は各旧町に設置されており、平成の合併後は西予市文化財保護審議会に引き継がれました。当初、各町5名の計25名で構成されていましたが、会の機動性を高めるため段階的に規模を縮小し、現在は7名（定数は15名以内）で構成されています。

### ■（3）文化財行政の取組（巻末資料9参照）

西予市の文化財に関する取組を巻末に記載しました。以下、4つの時期に大別して概要を述べます。

#### ① 平成10年代後半（2004～2007）

この時期の調査は、西予市教育委員会と愛媛大学考古学研究室が共同で行ってきた保存目的の発掘調査、開発に伴う市教委による緊急発掘調査が大半を占めます。このほか、愛媛県教育委員会による近代和風建築の調査が行われました。

合併後は山田薬師山門やトゥファなどの市指定がある一方で、合併前に伐採されたうどがまのアカウツの県指定解除や、市指定の解除がありました。また、明石寺本堂ほか9件の国登録がありました。平成19年度（2007）には『西予市の文化財』を刊行しました。

#### ② 平成20年代前半（2008～2013）

平成20年度（2008）に、大学で考古学を専攻した職員1名を採用。愛媛大学考古学研究室と共同で取り組んできた発掘調査は、平成7年度（1995）の岩木赤坂遺跡の調査以来、縄文時代から古代に属する15か所を超える遺跡の調査で、南予の古代文化を解明するうえでの重要な成果が得られました。西予市教育委員会では、平成19年度（2007）から現在に至るまで市内遺跡詳細分布調査に取り組み、周知の埋蔵文化財包蔵地の把握や遺跡分布図の整備を進めています。このほか、愛媛県教育委員会による近代化遺産調査が行われました。

指定等では、長年の課題であった卯之町の町並みが重要伝統的建造物群保存地区に選定され、以降、地区内の建造物の修理・修景を進めています。このほか嶋山菊池家文書が県有形文化財に、中津川洞穴遺跡が広見町（当時）岩谷遺跡以来29年ぶりに県の史跡に指定されました。また三瓶隧道が国登録有形文化財に登録されています。

平成20年度（2008）には、市民・行政・大学（研究者）が三位一体となって調査を行った笠置峠古墳の整備を実施しました。県内の前期前方後円墳としては、今治市大西町の妙見

<sup>1</sup> 文化財建造物の保存修理のために必要な原材料のうち、山野から供給される植物性資材を安定的に確保するために、平成18年度（2006）からこれらの植物性資材を産出している全国における産地を「ふるさと文化財の森」として設定し、修理の際、これら「ふるさと文化財の森」の情報を提供することで、保存修理での資材の安定的な確保を目指すもの。

山古墳に続き2例目となります。整備後も市民・行政・研究者が連携して、葺石体験や駅からウォークなどの埋蔵文化財活用事業を行うなど、発掘調査から遺跡の維持管理、活用に至るまで地元住民を中心とした市民参加で実施されている点は特筆すべきです。活用事業では、石庖丁づくり実験も実施しています。

### ③ 平成20年代後半～末（2014～2019）

指定文化財の再評価のため、建造物や彫刻などの調査を行い、調査の過程で新たな価値が見出された文化財もあります。市内遺跡調査では、小森古墳の調査に着手しました。また、笠置峠古墳の発掘調査報告書が刊行され、調査研究成果に基づく展示、シンポジウムを東・中・南予で開催しました。また、笠置峠古墳における葬送儀礼の復元実修を、愛媛の遺跡利活用団体交流会の協力を得て実施しました。四国遍路の世界遺産化に関連した愛媛県教育委員会による歴史の道調査や札所寺院調査が行われ、八幡浜街道笠置峠越の史跡指定、明石寺境内と大寶寺道の追加指定（伊予遍路道に追加指定）に繋がりました。明浜町狩浜地区の文化的景観調査を実施し、平成31年度（2019）に宇和海狩浜の段畑と農漁村景観として重要文化的景観に選定されました。このほか、明浜町俵津大山神社のモガシの倒折を受けて、市内在住の樹木医の協力を得て天然記念物（樹木）の健全度を把握する調査を行いました。

茅葺き茶堂の保存を進めるために補助要綱を改正しました。このほか、一部地域で指定文化財の所有者や管理者に毎年支払われていた委託料等を廃し、保存修理や防災対策のための財源としました。損傷が著しく長年の懸案であった極楽寺阿弥陀如来坐像の保存修理が行われました。

平成30年（2018）7月豪雨では、史跡を中心に斜面崩壊や洗掘の被害が発生しました。また、野村支所や旧大和田小学校に保管されていた行政文書が水損したため、全国のボランティアや専門機関等の協力を得て、水損行政文書のレスキューに取り組みました。

市内の文化財調査の成果の共有や文化財に親しむ機会を創出するため、平成27年度（2015）から歴史文化講演会を毎年開催しました。

### ④ 令和以降（2020～）

損傷が著しく長年の懸案であった地福寺木造阿弥陀如来坐像の保存修理が実施されました。確認調査により、小森古墳が笠置峠古墳に後続する前期前方後円墳であることを確認しました。宇和海狩浜の段畑と農漁村景観の整備事業として、秋祭りの拠点である春日神社や民家の修理が行われました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、歴史文化講演会、修理現場の公開、遺跡調査の現地説明会などは、軒並み開催を見送らざるを得ませんでした。また、調査委員会等も、対面ではなく一部オンラインでの会議を余儀なくされるものもありました。令和3年（2021）から3年間、愛媛県教育委員会の祭り・行事調査が行われました。

令和4年度（2022）に、大学で美術史を専攻した職員1名を採用しました。